

NIE 実践校 2 年間の実践報告

大口明光学園中学校

1 はじめに

本校は NIE 実践校に 2 年間指定していただいた。ここでは 2 年間の実践のまとめとその成果と課題を報告したい。

2 実践校指定のねらいとテーマ

(1) 指定のねらい

実践校指定で複数の新聞社の新聞を一定期間無償で提供していただけることで教材として活用しやすくなり、授業や総合学習、LHR などの活動の幅を広げて活性化することをねらいとしていた。また、NIE を通じて、読解力だけでなく表現力やデータを読み取る力など多様な力を身につけ、高校生での課題解決学習へつなげて、大学入試改革へも対応したいと考えた。

(2) 実践にあたってのテーマ

テーマとして以下の 5 点を設定した。

- | | |
|---|-----------------------------------|
| A | 新聞を通して国際的教養を身に付ける。 |
| B | ニュースに興味を持つ。 |
| C | 新聞を読むことで読解力を身につける。 |
| D | 記事を読んで自分の考えを持って、意見を言える（書ける）ようになる。 |
| E | 発表を通して相手の考えとの同意点や相違点から考えの多様性を知る。 |

実践 1 年目は何よりもまず新聞に親しみや関心が少ない生徒に、新聞を目にする機会を多く持たせることで新聞に対する抵抗感を少なくし、親しめるようにすることを心がけたことからテーマ A・B に重点を置いた。

実践 2 年目は実践を一通り体験して学年が上がった生徒たちがいるので、より発展的なテーマ C・D・E の実践を目指した。

3 実践内容

(1) 購読計画で意識したこと

全国紙・地元紙が同じ月に 3 社届くように計画することで、読み比べができるようにした。2 年目ではより新聞が苦手な生徒を意識して「読売中高生新聞」を取り入れた。

(2) 実践体制

ア 職員

NIE 係と中学 1～3 年の担任・副担任・主任・教科担当で実施した。

イ 場所

合同教室 1 を「NIE ルーム」とし、後ろのロッカーに届いた新聞を新聞社ごとに並べ、過去の新聞はロッカーの中で保管する。合同教室の壁に各学年の取り組みを掲示するスペースを設ける。

	
外観	教室うしろロッカー上
	
教室の壁に NIE の作品を展示	休み時間の風景

(3) 活動

ア 「朝しんぶん」について

① 朝しんぶん

朝の 15 分間で各学年週 1 回ずつ実施。中学 1 年と 2 年は、級長がクラスの人気分 NIE ルームから新聞を取りに行き、時間になったら配布。実施日 1 ヶ月以内の新聞で 1 面の記事を読み、感想シートを記入。1 面のみとしたのは、限られた時間で記事を選び、感想を書き終わるようにするためである。中学 3 年には共通の記事を印刷した感想シートを NIE 係で作成し、配布した。書き終わった感想シートは、級長が集めて担任へ提出。担任は内容に目を通し、確認印を押して NIE 担当教員へ提出。担当教員はシートをまとめ、学年ごとにファイリングし、NIE ルームで保管・展示。

中学1年・2年用感想シート	中学3年用用紙感想シート	感想シートファイル

② 終礼時に発表

中学1年・2年は週に1回、終礼時に朝しんぶんの感想を終礼で読む。中学3年は、クラスメートの発表を聞いて、その発表に対して感想を書く。

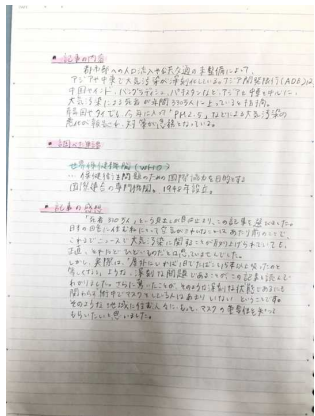
朝しんぶん活動	終礼で発表

イ 学年行事を新聞形式でまとめて学園祭（明光祭）で展示

※写真は中学2年の国際理解研修新聞

--	--

ウ 授業での実践

		
2018年度中学2年総合学習 「職業調べ」	2019年度中学3年保健の新聞スクラップリレー	

4 成果と課題

2年間の実践を通して、生徒たちの中でニュースや世の中のできごとに興味を持つ生徒が増えてきた。実際に、私が担当している授業の導入時などでも時事問題の話題に触れると、実践前よりも反応が良くなった。このことから、生徒が常にニュースに触れる機会を作ることが大変重要であるとわかった。

朝しんぶんを通して記事に対する自分の意見を持つ力と表現する力が養われた。NIE ルームの感想ファイルを読み、終礼時にクラスメートの発表を聞くことで、他者の意見に触れることもできた。特に中学3年では、同じ記事についての感想であったので、発表内容に対し、賛成・反対の意見を述べることができた。同じ記事でも皆が同じように考えているわけではないという、意見の多様性を知ることができた。

新聞を読むだけでなく、新聞を使った表現活動も実施できた。職業調べや保健の授業においては関連記事をまとめながら、テーマに沿った展示に仕上げることもできた。また、学年行事を新聞形式にわかりやすくまとめることができた。

一方、読解力やデータの読み取りの能力向上には、さらなる取り組みの改善が必要である。また、自分の意見をより適切にわかりやすく伝える力をどのように伸ばしていくかも課題である。

5 おわりに

NIE 担当として至らない点ばかりであったが、中学校の先生方を中心に多くの先生方、南日本新聞社、アドバイザーの先生のご支援とご協力で2年間の実践を終えることができた。ここに厚く御礼申し上げるとともに、学んだことをいかして実践校指定終了後も様々な形でNIEの実践を研究していきたい。